

ユニバーサル未来社会の実現

資料 1

あらゆる生活空間でロボットが活躍し、高齢者や障害者、外国人も含めた多様な者が、ストレスフリーな生活の実現に必要な幅広いサービスを楽しむシーンを作り上げ、ショーケース化する。

【実施場所の具体例】 台場及び青海地域(想定)

日本科学未来館等があり、五輪会場に近接する台場及び青海地域を中核として、パーソナルモビリティ、超臨場感映像技術、デジタルサイネージ、多言語翻訳、案内ロボット等の先端ロボット技術の体験フィールドを構築する。



お台場の実施イメージ※

※公道及び関係施設については、東京都をはじめ今後調整



空港の実施イメージ

【実施場所の具体例】 市街地及び空港(※経済産業省と連携)

市街地等では自律移動型ロボット、各地の空港ではコミュニケーションロボット(翻訳・道案内サービス)、手荷物運搬サポートロボット等、多様なロボットが相互に連携してサービス提供する姿を世界に発信する。

ユニバーサル未来社会を実現するための技術例

 <p>案内ロボット</p> <ul style="list-style-type: none">お出迎え・施設内の案内誘導サポートニーズのヒアリングサポートニーズに応じた各種手配	<p>誰もが会話で困らない</p>  <p>多言語翻訳</p> <p>Hello 你好 Bonjour... こんにちは 首にかける翻訳機等</p>	<p>自動運転や移動支援</p>  <p>パーソナルモビリティ</p>	<p>荷物運搬や高齢者・障害者へのアシスト技術</p>  <p>アシストスーツ</p>	<p>4K・8K映像等による最先端映像技術</p>  <p>デジタルサイネージ 超臨場感映像</p>
---	--	--	--	---

「日本再興戦略」改訂2015「改革2020」における位置付け

「日本再興戦略」改訂2015(平成27年6月30日閣議決定)

第一 総論 (略)

第二 3つのアクションプラン (略)

第三 革命のモメンタム～「改革2020」の推進～

<概要>

- ◇ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の外国人が訪日する2020年をモメンタムとして、革命・イノベーションを加速。2020年までに我が国として成し遂げるべき中核となるプロジェクトで、後世代まで継承できる財産(レガシー)となるものを政府を挙げて推進
- ◇ 我が国の強みを社会実装・ショーケース化して海外にアピールでき、その後の経済成長につながるものとして、6つのプロジェクトを展開

<6つの推進プロジェクト>

- ①次世代都市交通システム・自動走行技術の活用
- ②分散型エネルギー資源の活用によるエネルギー・環境問題の解決
- ③**先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現**
- ④高品質な日本式医療サービス・技術の国際展開(医療のインバウンド)
- ⑤観光立国のショーケース化
- ⑥対日直接投資拡大に向けた誘致方策

オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組（抜粋）

オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組 （平成27年4月10日文部科学省決定）

- 1 背景（略）
- 2 文部科学省としての考え（略）
- 3 文部科学省としての目標（略）
- 4 文部科学省としての取組

<概要>

イノベーション

- ◇ 課題解決先進国である我が国の先端科学技術を社会実装し、社会的課題の解決・システムソリューションを世界市場に輸出
- ◇ **ユニバーサル未来社会**、レジリエントな社会、エネルギー制約のない社会、衣食住等における豊かな生活社会、フロンティア開拓社会、革新的なものづくり社会、健康長寿社会という七つの社会イメージ及び東北復興の実現
- ◇ 2020年のオリンピック・パラリンピック開催期間をショーケースの機会として捉え、我が国の科学技術によるシステムソリューションを世界に発信

<文部科学省としての6つの取組>

- | | |
|------------|----------|
| ①キックオフイベント | ④イノベーション |
| ②スポーツ | ⑤ヒューマン |
| ③カルチャー | ⑥ユニバーサル |

(参考) 台場及び青海周辺地区におけるプロジェクトの展開イメージ



※公道及び関係施設については、東京都をはじめ今後調整

今後の進め方について

平成27年9月15日

1. 経緯・体制

- ① ユニバーサル未来社会推進協議会で推進する「先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会プロジェクト」は、以下の2つによって位置付けられている。
 - ・「日本再興戦略」改訂2015（平成27年6月30日）のうち、6つの改革2020プロジェクトの1つ
 - ・オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組（平成27年4月10日）のうち、イノベーション分野のプロジェクトの1つ
- ② 事務局を文部科学省及び千葉工業大学未来ロボット技術研究センターが務める。

2. 今後の進め方

- ① ユニバーサル未来社会の全体ビジョンを検討
- ② 会員の募集
- ③ 実証プロジェクトの募集

<実証プロジェクトの募集ポイント>

- ・2020年にユニバーサルな体験を来場者に提供できる実演可能な日本が関わる技術であること
- ・事業化することが前提となっていること

3. スケジュール

- 10月中旬目途：実証プロジェクトの募集開始
- 11月末目途：一次締切予定
- 12月目途：第2回協議会